

社会科授業における討論の重要性

土屋 武志 (愛知教育大学社会科教育講座)

(2006年10月31日受理)

The importance of the discussion in Social studies

Takeshi TSUCHIYA (Department of Social Studies, Aichi University of Education)

要約 社会科授業において「討論」という学習活動は重要である。民主社会では、社会的関係性を認識すると同時に人と相互に関係しあえる能力が必要かつ重要な能力である。これらを育成することが社会科教育の基礎的役割である。この認識と能力は討論によって育成することができる。したがって、社会科学学習活動の中に、討論を意図的に取り入れていくことが重要なのである。また、ペアワークやグループワークは、討論場を誘導する活動として効果的であり、社会科学学習活動に意図的・積極的に取り入れるべき活動である。

Keywords : 社会科, 討論, 民主主義

1. はじめに

本論は、社会科授業における討論の重要性とその能力を育てるための授業技術について論じる。

社会科は、社会を認識する能力を育てる教科である。現代の世界では「民主主義」の重要性を認識することが特に重視される。また、その認識の結果として民主的に行動することが求められている^{*1}。学校教育においてその認識と行動力をどのような方法によって育てるべきだろうか。

その方法として、アジア・太平洋戦争の敗戦後に社会科が発足した当初から重視されたのは、討論である。もし社会科の授業に討論という学習活動がない場合、生徒たちは、社会科は討論する時間ではないと考える。あるいは、社会科の時間は、むしろ討論してはいけない時間だと思うだろう。そのような授業で論議を基本手段とする民主主義を学ぶことができるだろうか。民主主義は、多くの人々が話し合っ解決策を見つけるための手段である。社会科では、民主主義と討論を切り離して教えるべきではないし、だからこそ発足当初に重視されたのである。

ところが、現在の日本の教師の多くは社会科で討論する時間を削減し、教師の講義を中心とした授業方法を取ることが多い。その理由は次の三つとされる。

- ①「生徒たちが自分たちの意見を発表できない」。
- ②「生徒たちがいろいろな意見を言うと授業がまとまらない」。
- ③「答えは決まっているから、教師が早くそれを教える授業がよい」。

①の理由は、教師がそのトレーニングを行っていないときに発生する。生徒たちの発言力は、教師がそのための学習活動を実践しなければ、自然に育つわけではない。②の理由も①と同じである。教師が計画的に準備しない場合は、生徒たちは自分たちの意見を適切にまとめることができない。③の理由は、重要な問題

である。現実の社会の中で、私たちは答えがない問題に直面している。「答えは一つ」という社会認識は、問題を単純化していて、現実的でない。だから、このような社会科を学んだ生徒たちは、大人になったときに「社会科」は役に立たない学習だと考える。また、彼らの多くは学習した内容を忘れてしまう。

教師たちがこのような理由で生徒たちに討論させることが難しいと言うのは、教師たちに適切な研修が行われていないことによる。生徒たちが討論するための授業プランとそれを実践できる能力育成が教師には必要である。

2. 社会科における社会的関係性の視座

社会科は、人間社会の仕組みを学ぶ。しかも現代は民主的な社会なので、生徒たちは民主社会の仕組みを学ぶことになる。同時に、そのような社会をよりよくするために私たちがすべきことを考える。社会科ではこの二つの活動が不可欠である。

社会の仕組みに注目する際の最も効果的な質問は、「どのような関係があるか」という質問と考えられる。社会科は、社会の仕組みを学ぶ教科なので、社会的関係性を理解させることが重要となる。したがって、「どのような関係か」という質問は基本的質問といえる。たとえば、「消防署と市役所はどんな関係か」「この事件とこの人物はどんな関係か」「この国とこの国とはどんな関係か」など関係性についての質問がある。関係性を問う質問がない授業は、答えが一つの単純な授業になる場合が多い。その場合、生徒たちは、自分の考えを言う必要はなく、教科書の中の正しい答えを捜すだけの活動をする。それとは逆に関係性を問う授業の場合、教師たちは一つの正しい答えを言うことができない。なぜなら、関係性には、視点の違いからいくつもの見方や立場が生まれるため、答えには、それが正しいかどうか議論が生まれる場合が多い。し

たがって、授業は、生徒たちがいくつかの仮説を立てて討論する授業になる。

次に考えるべき「社会の中で私たちがすべきこと」という質問は、さらに討論を引き起こす質問となる。現代の社会をよりよくするために私たちがすべき活動を生徒たちが考える授業は、社会的立場によって、よいと考えることが違うために、いろいろな意見が出る。もし、多様な意見が出ないとすれば、その原因は、教師が多様な意見を出そうとしていない場合が多い。

生徒たちが討論をするためには、違う立場の違う意見があることが必要である。そのために、教師が行うべき支援は、違う意見を大切にすることである。少数意見を大切にすることでもある。また、生徒はしばしば、自らの意見を理路整然と言えない場合が多い。特に少数意見を言うことには勇気がある。そのため、教師は、生徒が少数意見を言うことへの心理的プレッシャーを低くする授業を工夫する必要がある。たとえば、最初は、隣同士のペアや4人程のグループの中で意見を順に言うなどの方法である。次にペアの中の一人が全員の前で発表する。そのときもう一人はサポートする意見を付け加えるなどの授業方法が効果的である。グループを代表して発表するようなトレーニングも効果がある。このときに重要な点は、発表者を支えるサポーターとなる生徒を育てることである。そのため、このような学習活動を繰り返して実施する必要がある。

その際、教師が行う支援は、生徒たちの意見について、教師が良いとか悪いという判断をしないことも有効である。その意見が良いか悪いかは、生徒たち自身が討論によって判断すべき学習課題であり、そのために討論がある。教師が判断することにより、違う意見を持つ生徒は、意見を言えない状況になる場合が多い。したがって、このような場合の教師の支援は、「いまの意見はどうですか？」と意見を促す言葉を言うことである。特に少数意見については、教師が無視したりだめだと否定しないこと。このような自制的で意図的な教師の姿勢が討論を活発にする。

しかし、生徒が理由や根拠を示さないときは、教師が「もう一度言ってください。」とか、「理由を言ってください。」と言う。それは、根拠をつけて意見を言う論理的能力を子どもに育てる。生徒は、「根拠」として、社会科として適切な情報を用いようとする。地図や統計資料、教科書などが根拠であるが、必要な場合は生徒自身によるフィールドワークも実施する。教科書以外に新聞記事や本なども資料として利用できる。それを教師が生徒に与えるのではなく、気づくようなところに置いておいたり掲示しておく。生徒同士が多様な資料にもとづいて他者の意見を関係づける。それが社会科における討論活動である。この活動は民主的な社会を築いていくうえで基本的な活動であり、社会科

は、そのような力を育てるための教科である。

3. 関係性を生む学習活動

前節で述べたように、ペアや3～4人のグループ活動は、生徒相互の関係を生むための基本的な学習集団である。私たちの社会は、一人だけの人間で成り立つのではなく、複数の人間相互の関わり合いで成り立つ。この視点から、最低2人の人間が関わることのできる学習活動は社会科授業の基本といえる。

学習活動の中で、互いの意見を交換するようなキャッチボールゲーム（バトンやボールを持つ人が話をし、終わったらとなりの友人にそれを渡して順番に意見を述べる方法）は基本的なものである。以下に生徒たちに討論が重要であることを理解させるための授業モデルを紹介する。

モデル1：「異なる視点」

このモデルは、違う情報を元にして説明すると、同じことも異なる説明になることを知る授業である。考えるときの情報の重要さと、情報の違いによって社会の見方が違ってくことに気づく。多文化共生社会における視座の違いに気づく。

① 教師が同じ地域や人物で違う写真を2種類用意する。

たとえば、着物を着た人物が映った京都の写真と最近のファッションの人が映った京都の写真

② 生徒を2人一組のペアにする。教師はペアの一人ずつにどちらか1枚の写真を与える。生徒たちは互いにそれを見ないで、各自で写真に写っている町の説明を書く。

③ 生徒たちは、書き終わった説明書きを交換し、どこの町かを推理する。

④ 教師は生徒たちに二つの市が同じ市であることを伝え、ペアで説明を書き直させる。

⑤ 生徒たちは、できあがった新しい説明を他のペアと交換する（4人グループ）。

言葉で伝えてもよい。

⑥ 生徒同士で互いの説明書きにコメントを書き合う。もしくは、一人ひとり感想を述べる。

⑦ この2枚の写真はどんな関係にあるか考えグループで討論する。

モデル2：「いろいろな解釈」

このモデルは、生徒たちが歴史が多様に解釈されることに気づくモデルである。

① 教師がある時代の生活がわかる絵やイラストを用意する。

② 生徒は、絵の中で興味を持った人物や場面をいくつか選ぶ。その場面に印を付ける。

- ③ ペアもしくはグループで、他のペアやグループではあまり見つけ出しそりに思えない場面を選ぶ。
- ④ 生徒たちは、選んだ場面や人物について、「あり得る説明」と「あり得ない説明」を考え、説明を書く。
- ⑤ 生徒たちは各自の説明（＝解釈）を発表する。
- ⑥ 生徒たちは説明の信憑性について互いに質疑応答する。
- ⑦ 生徒たちは、各自の説明についてその信憑性を調べる計画を立てる。調べて発表する。特に、生徒たちは、他のグループの説明と自分たちの説明との関係を明確にする。
- ⑧ 生徒たちは、各グループで、この活動を通してどのような「能力」を使ったか複数の意見を出す。生徒たちは意見を黒板に書く。
- ⑨ 黒板を見て、他のグループの意見を参考にグループ内でこの学習活動によって「伸びた能力」は何か討論する。

このような活動を重要な学習活動として意図的に適宜取り入れることによって、生徒同士が関わり合う場面や討論する場面が生じる。さらに、この二つの学習活動の後、教師は、生徒たちにこのゲームで「伸びなかった能力」は何かを話し合わせる。その結果にもとづいて、教師と生徒たちは、その「能力」を伸ばす学習活動を考える。なお、このような学習活動を促進させるため、教師が行う支援として、思考の深化を促す指示（ことばによる指示）は重要である*²。

4. 小括と翻訳

本論の冒頭で述べたように、人と関わり合う能力は、民主社会における社会科教育の基礎である。この点を意図的に取り入れていくことによって、アジアで共通な社会科の「学習活動」を開発することが可能と考える。たとえば、アジア諸国の政府間にある歴史認識の違いは、市民相互の関わり合いの中で解決の方向性を見つけるしか根本的な解決方法は得られない事例である。本論は、「討論」という視点からこのような学習活動の可能性を提案した。

一方、このような学習活動は、学習者の自主性を保障する反面、危険性も持つ。たとえば、民主的プロセスをへて、人権が抑圧される結果や武力による解決という結果を肯定してしまう危険性がある*³。それを防ぐために、社会科教師たちは、人権が抑圧された事例や武力によって引き起こされた不幸な出来事に関する十分な情報を生徒たちに提供しなければならない。この視点から、アジア地域の歴史教育の場合、植民地政策による人権抑圧の事例や核兵器による被害について、教材や学習プログラムを共同開発する必要性があ

る。

本小論は、以上の点を提案するために、2006年8月にインドネシアにおける国際会議（International Seminar Reinventing Paradigms of Social Studies in Indonesia, インドネシア社会科教育学会主催、ジョグジャカルタ教育大学）において講演したものである。アジア地域において日本の社会科教育への関心は高い。そのような海外研究者を考慮して英文抄訳を載せる。なお、本研究は、平成18年度科学研究補助金基盤研究c「思考力を育てる歴史学習教材の構成原理」（研究代表者土屋武志：課題番号18530694）による研究の一部である。

The importance of the discussion in Social studies

1. Introduction

This article explains the importance of discussion learning in the social studies. Additionally class method is expressed, too.

Social studies is the subject for students to recognize society. The goal is to learn democracy in the modern world and to act democratically*¹. Will teachers be able to tell students drive in the democracy society?

The most effective method is “a discussion”. When there is no discussion in the social studies class, students think that social study is a subject in which a discussion is not necessary. They will think that it is a subject which must not be discussed. The students who experience such a class can't learn democracy. A discussion is the means to find good solutions for many people. We have the democratic method of “the discussion”. However, many teachers are afraid that students will argue. Those three points as follows.

- ① Students, can't express their opinion.
- ② The class won't be open to discussion.
- ③ Students think social studies has only one answer. Therefore, a discussion is unnecessary.

The begin with ① is because the teacher doesn't guide a discussion. A student's ability in the speech isn't developed automatically. A teacher must prepare learning activities for that intentionally.

The second problem is a consequence of ①. When there is no intentional preparation, students can't put their opinion together well. Thirdly is dangerous for the social studies teachers. We have many problems with no answer in the modern society. A problem is considered to have only one answer. Therefore, isn't realistic. If a teacher believes in one simple answer, the class lose the reality. Therefore, students say that social studies isn't useful. And, most of them forget the learned contents.

I gave advice for the social studies learning which students discuss.

2. Social studies is the subject which helps students notice various relations in the society.

Social studies is the subject for learning the structure of human society. The present day is a democracy society. Therefore, the students learn a democratic structure. At the same time, the students think about what they should do so that they may improve society more. Students do those two works.

When we notice various social structures, an effective question for that is the question of "What kind of relations are there?" For example, what kind of relations between a firehouse and a municipal office? What kind of relations between this matter and this person? What kind of relations are this country and that country? These questions are the question which a connection is thought about. The class when there is no question to ask about the connection is the class which an answer was decided as. In that case, students don't need to show a friend their opinion. Students only look for a correct answer in the textbook. It is reverse to this class in case of the class which a connection is thought about. Teachers can't say "one correct answer". Therefore, students can do some explanations. Students must argue to put an answer together in one because there is more than one answer. Students think about some hypotheses in the class. Then, they argues.

Next, an effective question is the question of "Should we do something?" Students begin to think about the behavior to improve modern society to each other by this question. People's

thought varies according to position in the actual society. Students controvert various opinions from the "different positions". If students can't think about more than one opinion. It's because they don't notice that society varies. Therefore, teachers must prepare the class such that students notice society has various opinions (positions) for students to consider.

Some different opinions are necessary so that students may learn to argue. Therefore, teachers should controvert "a different opinion". To paraphrase, a teacher takes care of a minority opinion for the goal of the discussion. Many students are poor at the logical explanation. Courage is especially necessary for him in the case of a minority opinion. Therefore, a skill which supports that student is necessary for the teacher. An effective method is how to say an opinion to turn in to the pair or the inside of the group. And, either of the pairs or one student in the group announces the opinion to the students of the class. One more student adds a supporting opinion. Such a class method is effective. The presentation of the group representative is effective, too. An important point is that students decide the person who supports a presenter by themselves in these activities. After students experience such learning activities many times, they come to act independently.

Teachers don't say whether it is all right for the students' opinion or it is bad in such a class. Students talk about the opinion which is good, or the opinion which isn't good to each other. A student's own judgment arises as the result. If, the teachers judge it, the student who has a different opinion from the teacher's, can't say his opinion. If the teacher wants students to argue, the teacher should ask students "What do you think of a friend's opinion?" That word of the teacher's promotes a student's independent talk. Moreover, teachers ignore a minority opinion, and they must not deny it. An attitude concerning such self-control of the teacher's makes student's talk activately.

But, that teacher may make remarks as follows, when students don't show a reason. "Say your opinion again." and "Explain some reasons." This remark of the teacher's makes the importance of the logic noticeable to students.

Students come to use appropriate information for the good explanation as a result. For example maps, statistics and data such as textbooks. Field work by the students themselves is effective, too. Not only a textbook but also a newspaper account and some books are available as the materials, too. Teachers shouldn't give materials to the student directly. Teachers should hide information in a place where students will notice it. Or, put it up on the corridor and so on. It is important for the students to discover materials personally. And, it is important to reinforce opinions by using it, too. Students begin to think about coursework as their own problem as that result. Then, students used it and talk. This is a social figure that is democratic. We must not forget that social studies is the subject to raise a democratic attitude.

3. The learning activities to cooperate

A pair or 3-4 group activities are the bases for students to make cooperative relations. Our society is not the society of only one person. More than one citizen influences each other in the society. As for the learning activities of social studies, at least two human beings must cooperate from this point of view. Therefore, "the catch game", which students exchange each other's opinion, is the fundamental way of learning. The rules are as follows.

Only the person who has a ball or a baton can talk. ①If that student finishes a story, a ball is delivered to a friend for the next turn. ②The next student to which a ball was given as expresses an opinion. Like this, "the catch game of the opinion" is the method as which students say an opinion in turn. Students do such fundamental activities in the social studies. The class model that students are active to such learning is introduced *2.

Model 1 : "Those two different points of view"

In this model, the class is shown that by using different information, a different impression is formed (even if the object is the same). Students notice that a difference is formed in the social point of view by the difference in the information. This makes students notice that there is a difference in the point of view in the

multiple cultural symbiotic society.

① A teacher prepares two kinds of photographs about the same area and the person. For example, one photograph of Kyoto where the person in kimono is reflected on. One more sheet, a photograph of Kyoto where the person in fashionable clothes recently is reflected.

② A teacher makes students pair. A teacher gives one person in each pair either one sheet of photograph. Students don't see the photograph which the partner of the pair has. A student writes the explanation of the city as a source of information 【 only the photograph which one has 】.

③ Students exchange the explanation they have finished writing. 【 the explanation of which town 】.

④ A teacher informs that the two cities are the same to the students. The students of the pair cooperate, and the teacher indicates that an explanation should be written again.

⑤ Students exchange the new explanation that was completed for other pairs. (the groups of four people one set)

Students may transmit it orally.

⑥ The students write a comment eachothers. Or, an impression is expressed in turn.

⑦ Students discuss what kind of relations two sheets of photographs are in the group.

Model 2 : "Various interpretation"

Students notice that history is interpreted variously by this class.

① A teacher prepares a picture in which the life of one age is understood.

② Students choose some people who had interest in the picture, and scenes. Students mark that place respectively.

③ Students think about the next in the pair or the group. It is chosen in search of the scene it doesn't think to find it in other pairs and the group.

④ Students write "a general explanation" and "a rare explanation" about the chosen scene, and the person.

⑤ Students announce each person's explanation (= interpretation).

⑥ Students give questions and answers to each other about the reliability of the explanation.

⑦ Students make a plan to check that reliability about each person's explanation. Students report a result of investigation to the friends. Specially, students made clear relations between the explanation of the group and their explanation.

⑧ Students use what kind of "ability", or he shows more than one opinion by these activities. Students write an opinion in the summary blackboard in the group. It is written in order of importance.

⑨ Students refer to the opinion of the groups such as reading [the opinion of the classmate written on the blackboard]. After that, they discuss what kind of ability grew due to these learning activities.

Students are concerned by teachers' adopting such activities for the class of the social studies intentionally. Ability for the discussion grows as that result. Furthermore, after these two learning functions, a teacher indicates that it talks about "the ability that it didn't grow" to the students. A teacher and students think about the next learning activities to extend that "ability" as a result.

4. The importance of the discussion in the social studies

In this article, I mentioned that it was social studies teacher's work to raise the ability that students were concerned. Teachers adopt this point of view as the learning activities intentionally. And, we can develop "the learning activities" of the common social studies in Asia. The method which solves a difference in the governmental perspective of history is probably only the method which citizens builds up their talk many times in Asia. The fundamental way of finding the aim of the solution is discussions. There is danger in such learning activities with doing so. For example, it sometimes becomes the result that human rights are oppressed by the democratic process. And, it has the danger to acknowledge the result of the solution by the military force *³. Social studies teachers must provide sufficient information about the happening in which human rights are restricted, and the war made for the students to prevent

that danger. We should develop subjects and learning programs in cooperation so that the social studies of the Asian region may develop. That program will be the joint program which learns repression of human rights due to colony politics, damage from nuclear weapons, and so on.

A complement about the history education in Japan

History is included in the social studies of the elementary school and the junior high school in Japan. But, history is independent in the high school *⁴. History learning of the high school branches off from "the Japanese history" and "the world history". But, the purpose of history learning is common to the social studies. That is to bring up students as "a democratic international society and peaceful citizen". The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology thinks that it is to raise the many-sided thinking power which more than one materials were used for as a subject of history learning at the high school. Workshops and learning by experience are encouraged as a method to enhance that ability. And, there is indication that learning of modern history and contemporary history is insufficient *⁵.

* 1 When basic information about the Japanese social studies education is known, it is the guidebook which the next book is suitable for. Japan Social Studies Research association, (2001), '*Social studies pedagogy research handbook*', Meiji Toshiyo

And, History learning is democratic learning, too. Norio IKENO clears this by his thesis. N.IKENO, (2006), *The Principles of Teaching History as Social Studies Education for Civil Society*, '*JOURNAL OF EDUCATIONAL RESEARCH on SOCIAL STUDIES*' Vol.64

* 2 The following books is helpful. T.Tsuchiya, "The relations" between National history education and World history education, '*The perspective of history for the global understanding on the 21st century*', Akashi Syoten, 2004, pp.232-239

T.Tsuchiya, History education at the teacher's

training university. For the east Asian history education, 'The History education to cross the border', education historical materials publishing meeting, 2004 and pp.73-96

* 3 Hitler's Nazi Germany was based on the legislation measure in the assembly historically, and it proceeded with the Judea isolation policy. The Japanese Government got the approval of the assembly, too, and did aggression policies. As for the present day as well, there is an example such as American Iraqi war by the approval of the assembly.

* 4 A present Japanese course of study is revised in 1998, and it has been carried out from 2002. The total school hours of the year were reduced for seventy hours by this revision. At present, the school hours of the social studies in the junior high school are 105 hours in the year. But, the 3rd grade is 85 hours. The number in a year is 980 hours at the time of all the classes. Government thinks Social studies to be the subject to bring up "the formation person of the peaceful state and society" democratically. That is specified consistently in the course of study. As for the history learning enforced by Social studies. Saeki Mahito who is the main person of the revised working team, wrote a suitable guidebook. M.Saeki 'Improvement of a class of junior high school social studies history learning to be made to see the entering power', Meiji Tosho, 1995. Tsuchiya joined this revised working team, too.

There is also Ikeno Norio's work as a treatise about history learning being civic education. N.Ikeno 'The Principles of Teaching History as social Studies Education for Civil Society'. JOURNAL OF EDUCATIONAL RESEARCH ON SOCIAL STUDIES. Vol64. 2006. pp.51-60

* 5 National education policy laboratory,(2006), 'The inquiry of investigation of the high school course of study execution conditions' (geography, history), Jikiyou publishing company, pp.322-324

日本語注

* 1 社会科教育に関する基本情報は、全国社会科教育学会、『社会科教育学研究 ハンドブック』, 明治図書, 2001及び日本社会科教育学会『新時代を

拓く社会科の挑戦』, 第一学習社, 2006による。両書には、現在の日本における社会科教育の課題が的確に整理され論じられている。

* 2 ことばによる指示として、以下のような指示がある。

①内容明確化

どういう意味ですか？ もう少し話してくれますか？

②詳しい内容を求める

いまの意見に付け加えることはありますか？ もう少し詳しく話してくれませんか？

③具体例を求める

具体例を挙げてもらえますか？ たとえば？

④核心をつく

何が問題なのですか？ 最大の障害は何ですか？

何がいちばん問題ですか？

⑤背景確認

こうなった原因は何ですか？ どのようにしてこうなったのですか？

⑥評価を求める

賛成・反対・中間どのあたりですか？ あなたはどう評価しますか？

⑦判断

うまくいかないときどうしますか？ 何が最もよいのですか？

⑧要約を促す

結論を言ってください。 いまままでの話をまとめてみるとどうなりますか？

⑨成果確認

何をもって達成したと判断しますか？ 達成したらどうなりますか？

⑩結果予想

どのような結果になると思いますか？ 成功する可能性はどれくらいですか？

⑪視点転換

5年後どうなっていると思いますか？ 全体から見てこれはどれくらい重要ですか？

⑫状況想定

もしも同じような状況にあったらどうしますか？

もしも何でもできるとしたらどうしますか？

⑬楽しさを引き出す

どうなったらいいと思いますか？他の人に教えるとしたら、どのように教えますか？

⑭選択肢拡大

いろいろアイディアを出し合ってみませんか？

他にどのような見方ができますか？ もう一つ考えを出してみてください。

⑮情報検索

今わかっていることは何ですか？ どうしたらもっと詳しいことがわかりますか？

⑯計画立案

どんな計画を練っているのですか？ どうすればこの状況を改善できますか？

⑰計画実行

どんな手順で実行しますか？ やり遂げるためにはどんな手助けが必要ですか？

いつそれをしますか？ 次のステップは何ですか？

⑱学びを深める

何を学びましたか？ この学びをどうやって自分のものにしますか？

⑲失敗を学びに変える

この失敗から学んだことは何ですか？ もう一回やり直すとしたら、今度はどのようにやりますか？

ローラ・ウイトワース他『コーチング・バイブル』東洋経済新報社，2002等参照

* 3 歴史的には、ヒトラーのナチスドイツは議会の立法措置に基づいてユダヤ隔離政策を進めた。日本政府も議会の承認を得て侵略政策をおこなった。現代においても議会の承認によるアメリカのイラク戦争などの例がある。